Ⅰ　実践

１　人権教育の目標

（１）自他の良さを認め合うなどの人権感覚を身に付けるとともに人権意識を育む。
（２）正しい見方、考え方、強い意志、豊かな心情をもった生徒を育て、励まし合い、助け合う人間関係を培う。

２　人権教育推進上の具体的課題

・一人一人が個人として尊重され、互いに認め合い、励まし合える人間性豊かな学校づくりを推進する。
・異学年、小学校、地域との交流活動の充実に努める。

３　実践内容

（１）朝のあいさつ運動の実施

生徒会役員を中心に、朝のあいさつ運動を実施している。１１月の「いばらき教育月間」では、小学生とともに活動を行った。

【あいさつ運動】

【小中合同あいさつ運動】

（２）澄水の集い

隔年で実施する行事で、生徒たちは異学年の縦割りグループの中で、うどんの汁のレシピを考え、うどん作りと汁作りの係分担をする。当日は地域のお年寄りとともにうどんを作り会食を行う。また、行事の中で、うどんの味やアイディアを競うコンテストも行われる。

【澄水の集い①】

【澄水の集い②】

（３）修学旅行先からの「修学旅行だより」の送付

修学旅行先から一人暮らしのお年寄りに絵はがきを出す取り組みである。毎年、実施している。

【修学旅行だより送付の様子①】

【修学旅行だより送付の様子②】

（４）特別活動推進事業でひまわり学園訪問
　第１学年の宿泊学習の活動に、ひまわり学園の利用者との交流が実施される。体育的活動に参加したり、施設の職員の方の話を聞いたりすることを体験する。

【利用者の方と体育的行事を行っている様子】

【職員の方との懇談の様子】

（５）地区敬老会への参加
　９月上旬に行われる地区敬老会に参加し、代表の生徒が作文を発表した。また、卓球部はお年寄りを席へ誘導したり、お茶を入れたりと会場係の手伝いをし、吹奏楽部は地域の楽団とともに演奏を披露した。

【会場係を手伝っている生徒の様子】

【吹奏楽部の演奏】

３　成果
（１）毎月実施しているあいさつ運動は、お互いに声を掛け合うことでよりよい人間関係を作る基盤となっている。

（２）学校行事での取り組みでは、郷土愛やお年寄りへの思いやりの気持ちを育むことができた。特に澄水の集いでは、体験活動を通して、学年や世代を超えて協力し合ったり、うどん作りという郷土の伝統技能に触れたりと、とても貴重な経験をすることができた。

Ⅱ　今後の課題
　日々の教育活動や学校行事を通して、よりよい人間関係の育成や、地域社会の一員としての自覚を再認識する実践に取り組むことができた。しかし、自他を大切にする感情の育成は時間がかかることであり、引き続き本校の人権教育の目標である「豊かな心情をもった生徒を育て、認め励まし合う豊かな人間関係」の醸成を目指し、学校生活全体を通して取り組んでいきたい。